

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【その他】

掲載数

58

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小1	その他	人権教育 「たいせつなわたし」	<p>人権週間に合わせて「人権とは何か」について考える時間を設けた。学校公開週間でもあったので、保護者にも人権の大切さを伝えた。</p> <p>川崎市で配付されたパンフレットに描いてある絵を見ながら、いろいろなことをしている子がいて、その表情も様々であることを確認した。悲しみや怒りの表情をしている子については、なぜなのか理由を考え、発表した。</p> <p>最後に、人権によって安心して生活することができることを伝えた。GIGA端末のスライドをテレビに映し出し、人権についての詳しい説明を加えた。</p>	川崎市配付のパンフレット「かわさき」共生共育
2 川崎市	小2	その他	命を守る	<p>避難訓練の際、理科室からの火災の想定で全校児童が校庭に避難した。その後、2年生は、火災の際に避難する「煙体験」を行った。4～5人のグループで煙が充満しているテント内をハンカチを口にあて、体勢を低くして出口まで進んだ。子どもたちは、視界がなにも驚いていた。その後、消防署員から、煙を吸う怖さの話があった。事故や災害から自分の命を守る方法を考えた。</p>	消防署員 煙体験用テント テント内を実際に歩くことにより、命を守る具体的なイメージがもてた。
3 川崎市	小2	その他	かわさき共生* 共育プログラム 「SOSの出し方・ 受け止め方教室」	<p>心の痛みを自覚することの大切さや、自分を支えてくれるものがあることを知るために、市が制作した「SOSの出し方・受け止め方教室」の動画を視聴し、自分の考えをワークシートに記入した。困ったときや辛いときに相談できる相手として、本年度から配置された学校巡回カウンセラーの紹介を行った。</p> <p>心の傷は目に見えなくても、気づいて手当てすることが大切だと感じていた。また、家族や担任以外にも相談ができることを確認していた。</p>	授業者は担任と巡回カウンセラー
4 川崎市	小6	その他	道徳「命の旅」	<p>北海道・知床の動物たちの生きる姿、新しい命を残すために死んでいく姿、その命を食べるといふ人間の営みを通して、「命の旅」の意味について考えた。生命は、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを知り、生命を尊重しようとしていました。普段言っている「いただきます」について改めて考え、生き物への感謝の気持ちを忘れずに心を込めて言いたいと考えていました。「命の旅」について思い思いに考えたことを友達と共有して、考えを深めました。</p>	

5	川崎市	小3	その他	人権尊重教育 「さっちゃんのまほうの手」	絵本「さっちゃんのまほうの手」のお話を通して、先天性四肢欠損症の主人公の気持ちに寄り添ったり、「身近な友達にさっちゃんのような子がいたら、どうするのか」を考え、自分の言葉で書き表したりした。話し合い活動では、「相手の心の痛みを感じる」と「相手を理解すること」、「何が困っているのか聞いてあげること」や「分け隔てなく関わり合うこと」などが大切であるということに多くの児童が気付いていた。	絵本「さっちゃんのまほうの手」たばた せいいち 先天性四肢障害児父母の会
6	川崎	小複合	その他	水害避難訓練	多摩川の堤防決壊に備え避難の仕方を確認し、約束の（お・か・し・も）を守り、安全に避難することを目標として避難訓練を行った。当日は事前指導の後、全校放送で多摩川の水量が危険水域に近づいていることが伝えられた。2回目の放送で多摩川の堤防決壊が告げられ、児童は3階以上に避難した。3・4階に教室がある学年は教室待機、1・2階に教室がある学年は3・4階の空き教室や廊下等に避難した。訓練終了後にイメージが難しい水害について、丁寧に振り返りを行った。	川崎市防災学習テキスト (改訂版) 1・2・3年用 / 4・5・6年用
7	川崎市	小複合	その他	防災 「自分の命は自分で守る」	本校では、年間を通して様々な災害に対する避難訓練を行った。毎月行われる訓練の前には、「自分の命は自分で守れる」ように避難経路の確認や、担任（大人）がいない場合の避難の仕方について指導をした。また、多摩川に学校が近いため水害時の避難方法についても訓練を行っている。その中で、特に高学年は学校だけでなく家庭でもきちんと防災について話し合っておく必要性を感じ、一人一人が準備している「非常用持出袋」の中身の確認や家庭でできる防災について、主に長期休業中に家庭で話し合いを行っている。	
8	川崎市	小6	その他	SOSの出し方・受け止め方を知ろう	1年生から6年生、全クラスで取り組んだ。 自分自身のことを振り返り、自分を支えている大切なものに気づき、「心の痛み」に気づくことの大切さを知る。映像教材を視聴し、SOSの出し方や受け止め方を学び、気づいたことや感じたことを友達と交流した。	かわさき共生*教育プログラム
9	相模原市	小1	その他	ALSOK あんしん教室 ～自分の身は自分で守る～	ロールプレイ等を取り入れながら、登下校時などの危険や万が一の対処法について、児童と一緒に考える授業を行った。授業では、「自分の身は自分で守る」という危険回避の心構えを児童が学び、登下校中の危険に対して「いかのおすし」という合い言葉を覚えさせた。（いかのおすし→いかない、のらない、おおごえをだす、すぐになげる、しらせる） 何がどう危険なのか気付かせ、どうしたら回避でき、安心・安全に暮らせるのかを身をもって学んだ。	総合警備保障株式会社 ALSOK
10	相模原市	小6	その他	平和教育	読み聞かせ「すみれじま」を導入として、戦争体験の新聞投稿や千人針等、戦争に関連する実物を通して、戦争と平和について考えた。状況も心身も過酷な状態で生きる大変さや辛さ、死んでしまうであろう戦場に家族を送る人々の思いから、戦争は絶対にしてはいけないという思いを強くしていた。また、生き抜く強さや家族を死なせたくないという思いも感じていた。	絵本「すみれじま」 千人針の布 戦争体験の新聞投稿

11	相模原市	小複合	その他	「いいことみつけ」	児童会児童が中心となり、「同じ学年の友だちや他学年の人の素敵な行動や、かけられて嬉しかった言葉などを見つけることで、笑顔あふれる学校にしていく」ことをめあてとして、全校児童を対象に活動を行った。心が温かくなる素敵な行動や、嬉しい言葉を見つけて短冊に書き、廊下に掲示したクラス毎の台紙に各自添付した。一人一枚は記入するよう呼びかけたが、一人で何枚も書く児童もたくさんいて、上から重ねて貼っている様子が見られた。そのいくつかは児童会児童が放送で紹介し、全校が笑顔になれる行動や言葉を増やしていこうと呼びかけた。	教材等なし
12	相模原市	小複合	その他	動物愛護	犬とのふれあい方の授業を1～5年生対象に行った。盲導犬や警察犬などの使役犬についてや、犬との正しい触れ合い方について学んだ。使役犬の役割や、殺処分予定だった犬の保護についても話を聞いた。「人間と同じように動物にも命がある。」と、命の大切さについて学ぶことができた。実際に犬と触れ合うことで、より犬が好きになったり、苦手だった児童も興味をもてたりしていた。また、月に1回ウォーキングタイムにセラピードックが参加し、子どもたちと一緒に歩くなど、交流をもってえいる。	講師 スマイルアニマルセラピークラブ
13	相模原市	小1	その他	たいせつなからだ	体の各部分の正しい名称やなぜきれいにするのかなど、自分の体のことについて正しく知ること、相手の体も大切であることを知る学習をした。学習を通して、始めは「チンチンだ！」などと面白半分を受けていた児童も正しい名称や、それぞれの部分がどんな役割を果たしているのかを知ること、次第に真剣な顔つきで授業に臨む姿が見られた。授業の最後には子どもから「友達の体だけでなく、気持ちも大切にすることが大事。」といった発言も見られ、相手を尊重することの重要性に気付くことができた。	「性教育の手引き」
14	相模原市	小3	その他	性教育、人権教育	助産師さんを招き、話を聞いた。 (3年) 保健「けんこうな生活」 道徳「自立」「生命尊重」「自他の敬愛」 ・がんばって生まれてきた自分 ・じぶんと命を大切に ・あなたを大切に思っている人がいる	助産師さん
15	相模原市	小5	その他	性教育、人権教育	助産師さんを招き、話を聞いた。 (5年) 理科「ひとのたんじょう」 家庭「食べて元気に」 道徳「自立」「生命尊重」「自他の敬愛」 ・ホルモンの働きとしくみ ・大人への準備と責任 ・将来描く(最終学年にむけて)	助産師さん

16	相模原市	小複合	その他	「障害のある人についての理解を深めよう」	身体が不自由な人について絵本「さっちゃんのまほうのて」を教材にして、場面ごとの「さっちゃん」の気持ちを、表情カードや感情メーターを使って考えた。絵本や表情カードを使うことで、そのときの「さっちゃん」の気持ちに近い表情をたくさん発表することができた。また、感情メーターを使うことで、場面が変化するごとに「さっちゃん」の気持ちもいっしょに変化していくことに気付くことができた。生まれつきゆびがない人がいることについて、驚きの声もあがったが、もし「さっちゃん」がそばにいたらどのように言葉かけをしたらよいかなど、自分たちの生活と結び付けながら意見を深めることができた。	絵本教材 『さっちゃんのまほうのて』たばた せいいち 先天性四肢障害児父母の会 偕成社
17	相模原市	小複合	その他	人権の話	12月10日は世界人権デーであること。人ケンまもる君のキャラクターの話など、学年に応じて話をした。高学年には人権の概念や、人権擁護活動の歴史など、学習内容に合わせて話をした。人の人権を守ることが自分の人権を守ることになるというメッセージを送った。	弘文堂 「こども六法」 実施学年 小1、小2、小3 小4、小5、小6
18	相模原市	小1	その他	リズムでふれあい	本校は、養護学校との居住地交流を行っている。今年度は1年生同士が音楽の授業で交流を計画した。自己紹介をしたり、クリスマスソングを歌ったりすることで場を和ませた。初めは互いが緊張している様子だったが、リズム遊びで手や身体を動かすと、少しずつ自分らしさが見られてきた。楽器を持たせると、好きなように動かして楽しむ様子に、本校の子どもたちも安心し、楽しみ始めた。最後に、生活科で製作した魚釣りゲームとどんでん返しゲームをすると楽しんで交流する場面が見られた。自分らしさを出せる活動の場を整えることで、互いの存在の大切さを感じた時間になれることを実感できた。	
19	相模原市	小5	その他	人のたんじょう	人のたんじょうは、1個の卵子と数億の精子のうちの1つから始まっていること。卵子と精子の大きさ。数億の精子のうち、卵子と結合できるのはたった1つであり、自分の命はそこから始まっている尊いものであること。	教科書 NHK for school
20	横須賀市	小4	その他	自然災害から暮らしを守る 地震から暮らしを守る	児童にとっても、地震は災害のなかでも身近に感じるができる。児童の中には、地震に対して少し緊張感が足りない様子も見て取れた。社会「地震から暮らしを守る」の学習を通して、地震の怖さ、備え等をしっかりと学び、自分の命を守るために必要なことを考えた。東日本大震災の際に、被災した教師の経験談や様々な資料を活用し地震に対して、どう対応すればいいのかを児童一人一人が自分事として考えることができた。	東日本大震災の被災経験 緒ある教師 (参考資料) ・内閣府防災情報ページ ・キッズページ
21	横須賀市	小複合	その他	命の大切さ	全学年児童が芸術鑑賞会で「百万回生きたねこ」の影絵劇を観劇した。お話に引き込まれ、興味を持って観ていた。観劇後の振り返りでは、家族の大切さ、ねこの人生について、生きる意味について、などの感想があった。	劇団スタジオライブ 絵本「100万回生きたねこ」佐野洋子(講談社刊)

22	横須賀市	小1	その他	防災教育 「自分の命は自分で守る」	<p>児童が生まれる前に、東日本大震災があったことを伝え、そのときどんなことが起きたのか。動画を視聴した。事前に関東大震災のことを知っている児童も数名いたが、具体的には知らない様子だった。</p> <p>子供たちは、地震の恐ろしさだけでなく、津波の恐ろしさも学習した。また、自分で自分の命は守らなくてはならないと感じていた。学習後には避難訓練があり、子供たちが真剣に避難している様子が見られた。</p>	DVD「自分の命は自分で守る」 東日本大震災を教訓とした防災教育教材
23	横須賀市	小5	その他	いじめについて	<p>いじめについて考えた。名前を変えて、ばい菌のように呼んだりするなど、からかいやふざけが相手をどれだけ傷つけるかなど考えた。みんなの名前は、両親からもらったすてきな贈り物であり、簡単には変えることができないこと、ばい菌扱いをされて命を絶った子がいること、自分の子どもがいじめを受けていたことを知る親の気持ちを考えるなどについて話し合った。</p>	
24	横須賀市	小5	その他	「人の命を救うためには」	<p>隣に座っている友達が、突然倒れてしまうかもしれない。一緒に遊んでいた友達が突然倒れてしまうかもしれない。そんな時、人の命を救う一つの方法として「心肺蘇生法」があることを学んだ。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下するが、心肺蘇生やAEDなどの応急手当を行うことで、救命の可能性が2倍以上になることに、驚く様子が見られた。実技では、キットを用いて実際に心肺蘇生法を体験することもできた。</p>	講師は、消防署の職員。
25	湘南三浦	小6	その他	いのちの歌	<p>2011年、東日本大震災で多くの命を失ったことをきっかけに、世界中が改めて「命」の大切さに気づかされた。この曲は、その命の大切さを音楽に乗せて伝えてくれている。コロナウイルスによってまた多くの大切な人を失った今日、授業の中で改めて歌詞の意味を考えながら、命とは、生きていくとはどういうことなのか、時間をかけて考えていった。</p>	教科書等
26	湘南三浦	小5	その他	生命の誕生（理科）	<p>理科、動物の誕生の学習で、人は母体内で成長して生まれることを学ぶ。人は受精卵から始まり母体内で少しずつ成長して体ができていくことを学習した。妊娠した時、胎児が体の中にいるときの生活や、そのときの気持ちについて経験者が児童に話して聞かせた。</p>	教科書等
27	湘南三浦	小1	その他	自分の命は自分で守る	<p>入学して間もなく、「交通安全教室」で交通ルールを学習した。DVDを観たり、模擬道路で実際に道路の歩き方などを体験するなかで、「自分の命は自分で守る」ということの大切さに気づくことができた。これまで、交通安全やルールに対しての知識はあったにしても、入学して登下校をひとりでするようになって、自衛しなければならぬ事に気づくよい機会になった。以後、防災訓練でも、予告のある無しにかかわらず、自分で考えて行動することに繋げることができた。</p>	茅ヶ崎市役所 安全対策課の方々

28	県央	小複合	その他	育てた野菜を大切に食べる	種いも（さといも）や苗（トマト、サツマイモ）、種（大根）を畑に植え、世話をした。世話をしながら、植物が育つ様子を観察し、思いを共有し合った。児童は、大きく育った野菜に驚き、喜んでいた。大きく育った野菜を、みんなで調理して味わった。体験学習を通して、植物の命のつながりを感じるとともに、その命は、人間の命にまでつながっていることを理解したり、実感したりしている児童がいた。	対象は、特別支援学級
29	県央	小複合	その他	人権教育 「南毛利ふわふわ言葉」	<ul style="list-style-type: none"> 使った方がよい言葉、使わない方がよい言葉を確認することで、言葉が人間関係作りや、学級の雰囲気に影響を与えることに気付き、相手のことを考えた言葉遣いができるようにする。 「言葉」がもつ力に気付き、（確認し）温かい言葉を使っていこうという態度を育て、いじめや差別をなくしていく。（児童の様子） 児童の見やすいところに一定期間掲示しておくことで、学校全体で取り組んでいることやみんなでふわふわ言葉を使うことを意識して過ごすようになり、児童も理解しやすい活動であった。 	クラスごとに記入するふわふわ言葉の用紙を配付
30	県央	小複合	その他	防犯教育 「安全の日」	<p>児童が安全を確保するための行動を理解し、日々安全を意識して過ごせるようにし、自分の身を自分で守れるよう、本校では2学期より「安全の日」を設け、毎月朝活動の時間に安全についての指導を行った。9月の安全の日では、不審者が来たことを想定し、児童が協力し合い、教室への侵入を防ぐためのバリケード作りを行った。</p> <p>（児童の様子） 事前にわかりやすい動画を撮影し、視聴したうえで行ったため、どの児童もバリケード作りに意欲的に取り組んでいた。バリケードを作った後も、不審者が廊下から覗いても見えないように机の下に隠れるようにするなど、真剣に活動していた。</p>	委員会活動で児童がバリケードの作り方の動画を作成。
31	県央	小複合	その他	交通安全教室	<p>講話と実技を通して、安全な歩行の仕方（①狭い道から広い道に出るときの歩き方②歩道に乗り上げて止まっている車の避け方③信号のない横断歩道で大型車が止まってくれたときの渡り方④歩道が途中から狭くなるときの歩き方）を学んだ。事前に児童から集めた質問に答えていただくことで、学区を走る大型車の運転手や地域企業の方と交流し、安全を守る方へ感謝の気持ちをもつとともに、交通安全への意識を高められるようにした。</p> <p>事後指導として、各学級で振り返りとお礼の手紙を書く時間をもった。命を守るために自分がこれからどんなことに気を付け、どんなことを実践していくかを考え話し合い、手紙に表した。</p>	<p>〈講師〉 地域企業職員8名 〈ボランティア〉 PTA校外生活指導委員 〈対象〉 全学年（低・中・高） 〈教材等〉 校庭に模擬道路を引き、トラック2台と乗用車2台が乗り入れ、講話と実技を行った。</p>
32	県央	小複合	その他	命輝いて	<p>高校生の時に目の難病を発症し、途中失明された方に話を聞いた。幼少期のことや目が見えなくなること、パラリンピックの経験などを講演していただいた。講演の最後には実際の金メダルを触らせていただき、児童も感動していた。目が悪くなって自殺を考えたときの気持ちを話される姿は胸に迫るものがあり、共生社会や命の尊さについて真剣に考えていた。</p>	アテネパラリンピック金メダリスト 小4・5・6合同

33	県央	小5	その他	応急手当講習会	キャンプの前に応急手当の方法を学ぶ。	大和市消防本部救急救命課
34	県央	小6	その他	平和教育	ビデオや映画、その他資料を活用し、原爆の恐ろしさ、命のはかなさについて学んだ。実際に映像をみた児童は、驚きや原爆の怖さを感じ、同時に命の尊さ、大切さを感じる事ができた。そこから、自分や家族、友人など、生きていることは素晴らしい事だと感じる事ができた。	ビデオ (はだしのゲンなど)
35	県央	小複合	その他	防災・安全	昨年度の学校評価アンケートの結果を受けて、今年度は7回にわたって給食時間に校内放送を行った。「どこで・どんな災害が起きた時に・どの経路で避難するか」や避難訓練で学んだことの確認、休み時間や登下校中の避難の仕方などを考えることができ、児童の意識が高まった。 また、不審者が校内に侵入した場合の安全で適切な行動についても、スライド資料を基に学習し、緊急放送の内容や具体的な退避行動について確認した。	全学年対象 9月～12月校内放送 スライド資料
36	県央	小1	その他	プライベートゾーン	体育の着替えの時やトイレに行った際に、ふざけてプライベートゾーンを友達に見せ、周りの児童が困惑している場面が見られた。そこで、プライベートゾーンについてわかりやすく描かれている絵本を読み聞かせ、プライベートゾーンとは「自分だけの大切な場所」であり、他人に見せたり、触らせたりしない。見られたり触られたりしたら「いや」と言うなど、正しい知識を身につけた。授業後もポスターを掲示し、知識の定着を図り、性犯罪防止につなげた。	絵本 スライド資料 ワークシート 保護者向け資料 振り返りシート ポスター
37	県央	小複合	その他	いじめ防止・人権週間	6年生の道徳の授業で読み物教材を使って、いじめについて考えた。自分にとっては楽しいことでも他人を傷つけてしまっていることがあるかもしれないということ、最悪は人のいのちを奪ってしまうことがあるということを考え、みんなが幸せに生きるために自分たちにできることを話し合った。 総合的な学習の時間では、ジェンダーについて学び、その人らしさを尊重していくことが大切であると考えることができた。 特別活動でもSSTを行うことで、周りの人を大切にしていきたいという意欲の高まりが見られた。 また、いじめ防止・人権週間にはこの授業で行ったことをもとにいのちや人権について話し合ったり考えたりしたことを児童が全校放送をして、全校の児童がいのちや人権を大切にする意識をもてるようにした。この全校放送は、特別活動担当、道徳担当、児童指導担当、人権担当、国際担当などの教師が6年生と交互に放送し、児童のいのちや人権を大切にする意識をより高めた。	教科：道徳、特別活動、総合的な学習の時間 教材：(道徳) 光文 6年 学年：6年及び全学年教師

38	県央	小複合	その他	友達と仲良くなる ろう	友達同士の仲をより深めるために、「変身ゲーム」や「仲間分けゲーム」などの活動に取り組んだ。個性豊かな子どもたちが、ルールをしっかりと理解し、友だちと仲良く相談したり、協力したりして取り組む姿が見られた。また、それぞれに苦手なこと、課題とすることがある中で、ゲームを通して友だちと関わり合うことを楽しんだり、譲り合ったりする姿も見られた。	全学年で実施
39	県央	小複合	その他	命の誕生	当該学年に妊娠している教員がいたため、胎児の成長や妊婦（お母さん）の気持ちを中心に、体験を交えながら命の誕生について授業をした。 胎児が10か月かけてどのように成長していくのか説明し、そのなかで妊婦（お母さん）にはどんな体の変化や気持ちの変化があるのかなど実際の話聞いた。どのくらいの重さがあるのか、妊婦エプロンを着たり、新生児と同じくらいの赤ちゃん人形を使って、ミルクあげやおむつ替えなどお世話の体験をさせた。また、聴診器で実際に妊婦のおなかの中の音を聞いた。	当該担任（妊婦） 複合学年（支援級） 胎児の絵、エコー写真や映像、妊婦エプロン、新生児人形、哺乳瓶、おむつ、聴診器
40	県央	小複合	その他	性に関する指導	1～6年まで、各学年の実態に合わせて性に関する指導を行った。4年生では思春期の体の発達と心の発達について、5年生では3億分の1の奇跡（いのちが生まれる確率）について、6年生では多様な性のありかたやLGBTQsについて学んだ。	養護教諭・担任
41	県央	小複合	その他	全教育活動における道徳教育推進の取組 「互いを理解し、尊重し合う心情・人権意識を育てる」	本校では自他の人権を大切にしている心情の涵養につながる活動に力を入れている。12月の人権週間では、一人ひとりの違いを認めて尊重する多様性への理解や平和を希求する心情、ジェンダー平等などについての動画を職員が撮影・編集して作成し、全学年が視聴した。また、『特別活動における道徳教育』では、今年度からクラブ活動だけでなく、委員会活動を4年生から参加するように変更し、「異年齢による望ましい人間関係を形成し、よりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる」という目標により迫るための手立てとした。	全学年（特活の取組は4～6年生） 道徳教育のひとつとして取り組んだ人権教育の実践、および特別活動における道徳教育
42	中	小5	その他	「災害からいのちを守るために」	1月予告なしの地震避難訓練が行われた。休み時間の途中での避難訓練ということもあってか、真剣に訓練に取り組まない姿が見られた。避難訓練終了後の指導で、児童と訓練の振り返りを行った。その中で、指導者が2011年の東日本大震災で体験したことや当時の児童たちが素早く避難でき、けが人も出なかったことを話した。今まで経験したことのない揺れの中で、なぜ当時の児童たちが素早く安全に避難ができたのかを考え、話し合いをした。話し合いを通して、児童たちそれぞれが、災害からいのちを守るためにできることを考えた。話し合いの後の感想には「1回1回の避難訓練に真剣に取り組みたい」「どのように避難をしたら早く安全に逃げられるかを考えておきたい」などと書かれていた。	参考：釜石の奇跡 どんな防災教育が子どもの“いのち”を救えるのか？ NHKスペシャル
43	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者の校内侵入など、緊急時に備え、安全を確保する訓練を行う。的確な指示と迅速な避難を心がけ、自分のいのちは自分で守れるように体制を確立をする。	

44	中	小5	その他	防災教育 「避難訓練時の 車いす児童への 対応」	中休みに予告なしの火災避難訓練が行われた。全交流している車イス児童に対して、交流級のクラスメイトはどんな対応をとるか、定点カメラを設置して担任は離れたところから見守っていた。すると数人の児童が彼女に寄り添い一緒に教室を出て、階段を彼女が降りている間、真横で見守ってくれていた。その後全体指導が終わって教室に戻ってから、「自分のいのちは自分で守る」ことの大切さを話し、本来の避難のしかたやどうすべきだったのか話し合った。	学校行事 「火災避難訓練」
45	中	小複合	その他	BIRTH～自分で決めた愛しい命	自分の人生は自分で決めて生きてるというテーマの講演会に涙する児童も多く、児童の感想はどれも大変に感動的だった。保護者参観はなかったので、児童の感想をコピーして、面談の際に保護者へ見せる担任もいた。	
46	中	小1	その他	たいせつなからだ	初めに今回は体の学習をすること、自他を守る大切な学習であることを伝え、意識付けを行った。中には「せいき」や「プライベートゾーン」など普段聞きなれない言葉に戸惑う様子も見られたが、多くの児童が終始真剣な表情で学んでいた。画面に写した絵本を読み聞かせるなど、提示の仕方を工夫し、これらが見せたり触れさせたりしてはいけない部分であることや清潔を保つことの大切さを伝えた。どの人も大切な存在であることを知り、自他を大切にしたい気持ちや性別に関係なく仲良くしようとする気持ちを育てることができた。	T1は、養護教諭による
47	中	小2	その他	「おへそのひみつ～おなかの中の赤ちゃん～」	おへそは、お腹の中でお母さんとつながっていた大切なしるしであることを知り、大切に育てられてきた大切ないのちであることを学習した。へその緒の役割について考えるなかで、生命の誕生への神秘を感じる児童が多数いた。赤ちゃん人形を抱っこする体験、妊娠期間を考える活動を通して、「自分もこんなに重たかったのかな」や「こんなにも長いあいだ、お母さんのお腹のなかにいたんだ」など自分事として振り返ることができた。	妊婦エプロンや赤ちゃん人形、絵本「つながってる！」を活用。
48	中	小3	その他	「いのちのつながり」	道徳の時間に学習した内容を復習し、今あるいのちは遠い昔から受け継がれてきた大切ないのちであることを再確認した。事前に行った保護者へのアンケートの回答を授業の中で紹介することで子どもたちは意欲的に話をきく様子がみられた。妊婦体験や聴診器で心音をきく活動等を通して、大切ないのちの重みを感じている様子だった。そしてその大切ないのちを次につなぐ側へと成長していくことに気づき、自他のいのちを大切にするために自分に何ができるかを考え、皆で共有した。	妊婦リュックや赤ちゃん人形、聴診器、絵本「いのちのまつり」、「みらいへ」を活用。
49	中	小複合	その他	不審者対応訓練	不審者が校内に侵入したことを想定し、児童の安全を守るための教員と児童の行動を、学校全体で確認・練習した。事前に、実際にあった大阪の事件とやまゆり事件の資料を全教員が改めて共有した上で、各学級で児童に命の大切さや尊重されるべきものという話をした。児童は、自分、他者、どの命も皆一つだけのものであり守られるべきものであるということを、事前学習や訓練から学んでいた。皆真剣に訓練に取り組み、不審者が侵入してきたときの行動の仕方を確認できた。	・大阪教育大学附属池田小学校事件に関して ・やまゆり事件について

50	中	小1	その他	性教育「体のしくみ」	男の子と女の子の体の絵から、体のしくみを説明した。女の子の体には、赤ちゃんが育つ「お部屋」があり、男の子の体には赤ちゃんのもとを作るところがあるなど、自分たちの体がとても大切なものだとことを確認した。1年生の子どもたちは、自分の体の中に大切なものがあることを初めて知る子どもも多く、驚いた様子だった。次に、大切な体のお風呂での体の洗い方やトイレで気をつけることなど、普段から意識してできることを話した。	講師は養護教諭「プライベートゾーン」について絵本を使って説明することで、具体的なイメージがもてた。 (参考資料) 「おしえて くもくん」
51	中	小2	その他	性教育「おへそのひみつ」	動物の絵を見て、おへそがあるグループとないグループに分け、生まれ方にちがいがあることを確認した。赤ちゃんは、お母さんのお腹でどうやって大きくなるのかを考え、「へその緒」が赤ちゃんとお母さんをつなぐ大切なものであり、おへそはへその緒がとれたものだという事等について授業を行った。赤ちゃんの人形を抱っこしたり、心臓の音を聞いたりすることで、お母さんにとって赤ちゃんが大切な存在であることや、自分の命も大切なものであることを実感できていた。	講師は養護教諭授業後に命についての紙芝居を読み、児童が自分の命について考えることが継続的にできていた。 (参考資料) 「うまれてきてくれてありがとう」
52	中	小5	その他	性の多様性	「性のあり方」について学ぶ機会として、学活で「性の多様性」をテーマに養護教諭とTTで行った。「性」は男女で簡単に分けられるものではなく、いろいろな「性のあり方」があること、また「性のあり方」について、自分が考える「当たり前」は、誰かにとっての「当たり前ではない」かもしれないことを伝えた。お互いに認め合い誰もが「自分らしく」生きられることが大切であることを考える時間となった。	
53	中	小複合	その他	いのちの大切さ	給食の時間を使い、3日間に渡って全校児童に「いのちの大切さ」について考える放送を行った。自分のクラス、学校、地域、世界には沢山の人がいること、たくさんの生き物もいること、その一人一人がひとつずつ大切ないのちをもっていることを伝え、自分と自分以外の人や生き物のいのちを大切に考えなくてはいけないことを伝えた。また、いのちのつながりでいのちが生まれることについても話題に上げ、いのちについて小学生が書いた作文を紹介した。児童はひとりひとり考えを巡らせながら静聴していた。	教材：かながわ「いのちの授業」ハンドブック、令和3年度 第9回「いのちの授業」大賞全集
54	中	小6	その他	「生命の尊さ」	重い心臓病の手術を前にして、お母さんへ書いた手紙の教材。単元の導入で「命が大切なのは〇〇だから」の〇〇に入る言葉を考えさせた。話し合いの授業を経て、命は、たった一つのかげがえのないものであるということを改めて実感しているようだった。授業の終わりには、「命が大切なのは、自分だけのものではなく、周りの人が支えてくれているものだから。」や「必ず終わりがあるからこそ、周りの人に感謝の気持ちを伝えていきたい。」などの感想が見られ、子どもたち一人ひとりが命について考えを深めることができたのではないかと感じた。	東京書籍 新訂新しいどうとく6「19 お母さんへの手紙」

55	中	小複合	その他	いのちの話	たくましく生きる力を持ちそなえていること、自分自身ががんばって生まれてきたかけがえのない大切な存在であること、いのちを大切にすることは自分自身を大切にすること、自分を大切に出来ることで他人のいのちも大切に出来るということ、「生きているだけで100点満点」ということを伝え、自分自身のいのちのはじまりから誕生までを知ることで、「自分のいのち」＝「自分」がかけがえのない大切な存在であることを実感できる講話をしていただいた。	講師は、いのちの大切さを伝える 助産師の会 助産師
56	県西	小複合	その他	コロナと感染予防	一昨年度より様々な活動の度にふれてきたCOVID-19（以下コロナ）についての正しい知識を再確認していくことを目的として、学級の時間や授業などで行った。 コロナは感染症・病気であり、接触や飛沫によって感染する。マスクやアルコール消毒などの対策を行っていくことで多くは予防することができる。こういった正しい知識を身につけていくことで、コロナ禍における学校生活を安全に過ごすことができるようになる。合併症を引き起こすなど重症化することもあり、感染予防をしていくことで、自分の命や身近な人たちの命を守っていけることを学んだ。	・各担任 ・「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」（日本赤十字社）「かけがえのない自分、かけがえのない健康」（文部科学省）他
57	県西	小複合	その他	「不審者が外部から侵入してきた場合の避難の仕方を身につけよう」	万が一不審者が校内に侵入した場合に、どのような対応をするのか訓練した。事前指導では、不審者が侵入した時の合い言葉や各場所における対応を確認した。訓練では、実施日時を知らせなかったため、落ち着いて行動することが難しかった。しかし、不審者がいることを想定し、子どもたちが身を寄せ合って待避行動し、不安を和らげることができた。また、いざ本当にそうなった時には、「自分の身を守るためにどうしたらよいか」と真剣に考えることができた。	・全校で実施。 ・小田原警察署 生活安全課少年係のスクールサポーターの方に不審者役を依頼した。 ・駐在所の警察官にも応援を要請した。
58	県西	小複合	その他	ミニミニ道德「落とし雛」【内容項目】自然愛護	「ミニミニ道德」とは、身近にある題材を用いて道徳的価値に迫ることをねらいとしている。今回は昇降口に掲示してあった、「落とし雛ポスター」を用いた。 初めにポスターに書かれている文字を隠し、「ヒナを□」に当てはまる言葉を予想させた。子どもたちからは、「助けよう」「守ろう」「大切に」などの考えが挙がった。正解が「触らないで」であることを紹介すると、驚きの声が聞かれた。 その後、雛を触ってはいけない理由を話し合った。初めは「菌を持っているから。」など人間の立場での発言が聞かれた。「親鳥や雛にとって悪影響になるのでは。」という発言をきっかけに、自然界でのルールに則った愛護が大切であることを学んだ。	【実施学年】 ☆1・2・3年(道徳推進教師が実施) 【教科等】 ☆朝の活動 【参考資料】 ☆落とし雛ポスター (公益財団法人 日本鳥類保護連盟)